寄稿「万次郎と東一郎」

ジョン万次郎・江東の会　塚本 宏

中濱東一郎

今号と次号に分けて、中濱万次郎の長男、中濱東一郎を長年にわたって研究してこられた医学博士、塚本宏さんからご寄稿いただいた「万次郎と東一郎」を掲載いたします。

塚本さんは、大阪大学医学部を卒業後、明治生命（現・明治安田生命）に入社。医務部長や同社取締役を経て、明治生命厚生事業団（現・明治安田厚生事業団）理事長、日本保険医学会会長（第25代）などを歴任されました。日本保険医学会の前身、日本保険医協会初代会長であった東一郎の日記をまとめた「中浜東一郎日記全5巻」（1992－1995）の刊行にあたって尽力されました。

現在は、日本と米国の保険医学会の名誉会員であるとともに、「ジョン万次郎・江東の会」の会員としても活躍されています。

その①

「東一郎とはどんな人物か？」

中浜東一郎（1857－1937）は、われらがジョン万次郎の長男として、芝・新線座の江川邸内で生れました。万次郎の子供、7人の中ではずば抜けて優秀でした。彼を一言で表現するなら、明治・大正・昭和にかけての「マルチ人間」だったと言えるでしょう。

父譲りの語学の才能をいち早く開花させ、15才には横浜十全病院で英語の通訳を務める傍ら医学も学び、実母の鉄が麻疹で早世したことと相まって、東京大学・医学部に進みます。明治14年に第3席の優等生で卒業後（因みに同級生の森鴎外は第8席）、直に地方の医学校（須賀川、岡山、金沢）の校長・教授を経て、内務省衛生局からドイツに留学します（明治18年）。目的は、衛生学の食物・栄養学や、上下水道施設の調査研究でした。

森鴎外

明治22年、帰国後はペッテンコーフェル、コッホ両先生直伝の衛生学、細菌学を駆使して目覚ましい活躍をします。同門だった緒方正規、森鴎外、小池正直らとともに衛生学草創期の基盤つくりに大きな貢献をしました。2年後には医学博士（「末は博士か大臣か」の頃の）を受領して、紛れもない名医の一人となりました。

内務省衛生局の官僚として、赤痢、コレラなど伝染病防疫のため東奔西走して、現地警察官とともに精力的に指導に当りました（いわゆる「警察衛生時代」）。同時に、「バイキン」を啓蒙する衛生講演会を各地で催して、教育者の役割も果たします。

また、細菌学者としても衛生試験所長を務め、天然痘ワクチンの製造からツベルクリンの研究に至るまで幅広い学識と実験能力を発揮しました。

明治政府の医療制度確立のために、医師免許試験委員長などの内務官僚の職務にも専念するのです。

Copyright (C) Center for International Exchange All rights reserved.